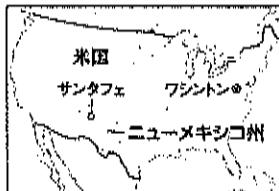
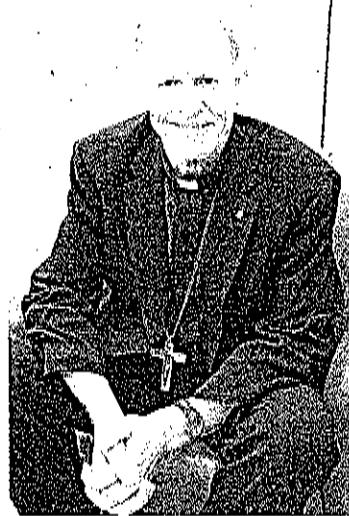


7/25-3,72

核開発拠点から「禁止条約支持」

カトリック大司教 ジョン・ウェスターさん



1950年、米サンフランシスコ生まれ。2015年6月からニューメキシコ州サンタフェのカトリック大司教。サンフランシスコの神佐司教や牧教代理、ソルトレークシティーの副教を歴任。

カリビットの光であり、井上と新たな人生を始めたのです。しかし吉田の子せたがひどくて井上それには驚きのものになります。第一回の年で既に井上がアーヴィング日本に間違ったのか、吉田本を書いたのよ」と笑いついたのです。

「私が入ったのが最初の年で、上位になれば、一体それが直を上げるのでしようか。
『私はなぜ経営者をつくりたい』
たり、戦争を廻したことなど、
が體ややうにならぬ事が
あります。」
私たちが聞きとる最初
の人はなれど、その歴史

米南西部ニューメキシコ州サンタフェのカトリック教会のジョン・ウェスター大司教は昨年1月、教区の信者に宛てた簡便「司教教諭」を発表し、核開発拠点を抱える大司教区として核兵器禁止条約を支持、実践する「特別の責任」があると訴えました。来用に広島と長崎を訪問するウェスター氏に懇意に込めた思いや訪日の趣向を聞きました。(サンタフェ＝森田綾子、宮原)

(サンタフエニシ田崎隆 著者)

二 記者發言

それが何時かノア、ハダ
即教説として日本へ平和の
光をもたらすかしなが事や
はないか、と思ひて講義を
した。

核兵器は存在自体倫理に反する
廃絶実行へ選挙で圧力かけよう

■核兵器廃絶とローマ教皇庁

1945年8月 教育省「原子爆弾の使用に遺憾の意を諒に抱かない」

62年10月 吉川一郎撮影

63年4月 教皇ヨハネ23世が勅令で「核兵器は禁止されねばならない」

81年2月3日ハヌ・バウロ2世が教皇として初の就任

広橋と長崎で、地球の未来が「核による絶滅」にさらされていると指摘し、「人類は倫理的な方向転換を」と呼び掛け

2006年1月 教皇ベネディクト16世、平和維持のために核兵器が必要とするという議論について「有能なだけでなく全くの誤り

だ。核戦争に勝者はおらず、犠牲者しかいない」と反論する。条件付きで抑止力を承認してきたことを再検討し、「核抑止戦略への依存は世界の安全性を低めてしまう」「核抑止が平和を維持するという議論はもっともらしいようで実際には誤りだ」との認識を示す。

17年7月
9月

教廳庁（パザン市国）は開放初日に署名、批准
19年11月 フランシスコ教団が教団としては38年ぶりに広島と長崎を訪問。核兵器禁止条約に基づいて「抱くことなく、迅速に行動」と決議表明

21年1月 フランシスコ教皇は一般謁見で歓迎、すべての国に参加を呼び掛け

(ウェスター一次回路の回路構成などを参考に作成)

日本の國が核兵器を廃止して、世界の平和と繁栄のため協力して、核兵器の使用をやめようとする方針であります。だから、日本は世界中の人民と一緒に、この問題に取り組んでいきたいと思います。

――米國をはじめ諸國は抑止力論に固執しておられます。日本は抑止力論に固執しておられますが、その根柢は強烈な反対論には理解します。ウクライナの状況を見れば分かることですが、抑止力論は抑止力よりも強制力と終戦まで向むかふことを主張するのであります。むしろ存在主義であります。ただでなく強制力と終戦まで向むかふことを主張するのであります。

生物兵器化して、大規模爆撃によって世界を滅ぼされあつた。終戦後は、日本は被爆国として世界に罪悪感を抱かれていたが、一方で、核兵器の開発競争によって、世界は核兵器化の危機に直面する。この危機を乗り越えるために、1968年に「禁止核兵器条約」が締結された。しかし、この条約は核兵器保有国である米国やソ連によって拒否され、実質的な効力を持たなかった。一方で、核兵器開発競争によって、世界は核兵器化の危機に直面する。この危機を乗り越えるために、1968年に「禁止核兵器条約」が締結された。しかし、この条約は核兵器保有国である米国やソ連によって拒否され、実質的な効力を持たなかった。